

中林たかしの一般質問

6月定例会では3項目を質しました。

コロナ対策について

2度目となるコロナ感染が発生した。原因は何か、職員規律に問題はなかつたか。

答（市長）

保健所の聞き取り調査では、職員は勤務時間の内外を問わず外部での飲食は行っていない。原因確定に至っていない。

問

ワクチン接種は順調に行われているか。65歳以上の高齢者接種は8月末完了予定となっているが、これでよいか。また、64歳以下のスケジュールが示されていないが今後の予定を伺う。

答（市長）

65歳以上の高齢者の第1回目の接種が7月末には70%終了予定だ。6歳以下の接種券は7月に発送、8月からは接種できるよう市立病院、医師会等との協議により早急に調整を進めている。

答（健康福祉部長）

接種券の発送が7月と言つても1カ月間と幅が広い。詳しい予定が示せないか。

また、6歳以下の接種は11月末頃までには終えられるか。

答（産業観光部長）

飲食・宿泊・旅客運送業に対し給付金事業や販促活動への支援を実施。十分ではないとの声もあり業況把握に努め支援していく。

これまでに取り組んだ事業で予算対比執行率が低い事業もある。原因分析は。

答（産業観光部長）

キヤツシユレス決済支援事業はpayさんのデータを基に企画したが高齢者宛の周知など課題があつた。その他事業は実施中であり数字は上昇している。

脱炭素社会に向けた動きは本市内の産業（林業、製造業など）にどのような影響があるか。また、どう対策を進めるか。

答（市長）

ガソリン車が無くなることで部品が必要だ。一方、林業への好影響も想定されれる。また、企業誘致にあたつては成長産業分野を考慮しながら進めていく。

人口増に向けた取組

コウノトリは5年連続の巣立ち、サギやイノシシなどの有害鳥獣も増加の一途。しかし、本市は人口減少に歯止めがかからぬ。原因を何と捉えどう処方箋を書くか。

答（市長）

自然減の圧力が大きな原因。また、若者や子育て世代の流出（社会減）、それが出稼りと愛着を持つ人材づくりや働き場所の確保、子育てしやすい環境づくり、住宅環境の整備などが必要だ。

問

土地開発公社の分譲宅地の在庫がゼロ、工業団地の在庫もゼロ、これで定住促進ができるか。民間宅地の購入補助が1千5百万円計上されているが不十分だ。

答（市長）

宅地は木次町そら山団地と大東町新庄団地、企業団地は神原企業団地を造成中。市と公社が一体となり施策展開を進める。

問

2大プロジェクト（食の幸とサツカーフ）は人口増に寄与するか。

答（市長）

食の幸は農家所得の向上、サツカーフは教育環境創出とスポーツ振興が目的。人口増を目指すプロジェクトではないが、目的を果たせば人口増にもつながる。

立地適正化計画策定をどう進めるか。

答（市長）

中核拠点ゾーンの中に病院や商業施設などを誘導し、中心市街地の役割を示していく。各地域が連携し豊かに暮らし続けられる計画とした。

デジタル防災無線受信機の配達が進んでいますが設置はお済でしょうか。災害が多発する季節となつてきました。備えあれば悪いなしです。

（たかし）

